

NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

ORMZ ニュース第 94 号 (R 元.5.25)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7（メール info@ormz.or.jp）文責：日高良雄



はじめに 早 5 月下旬、大型連休中に新しい元号となり、「令和」の文字をあちちで見聞きしましたが、ようやく落ち着いてきましたね。

宮崎では、震度 5 弱の地震や大雨がありご心配をおかけしましたが、大きな被害はなかったものの、「いつ何があってもおかしくない」ことを改めて肝に銘じたところでした。これから梅雨の季節となりますが、昨年のような豪雨被害がないことを祈っております。

さて、今回のニュースは、チャリティーコンサートの様子や、現地での活動報告、学生同行レポートなどを伝えします。

今後とも皆様のご支援のほどよろしくお願いします。

会の活動報告

- ORMZ ニュース第 93 号で車の贈呈式に在ザンビア日本国大使館の大天使が参加されたことをご報告しましたが、私達の活動に日本大使館も大変関心を持っていただいており、活動状況を報告してほしいとの依頼を受け、5 月 23 日にリテタ地区の巡回診療を実施した際の報告を行ってきました。また先日には、日本の外務省のホームページに ORMZ の活動について掲載していただけるとの事、大変ありがたいことと考えております。
- 23 日、「認定 NPO 法人の遺贈等による現物寄附の受入」に関する国の実態・課題調査の依頼があり早速回答しました。ORMZ ではこれまで現物寄附の受入を行ったことはありませんが、今後の参考にしたいと考えているところです。

チャリティーコンサートの報告

- 5 月 11 日（土）、午後 2 時 30 分から、宮崎市清武文化会館小ホールにて、ザンビアの辺地医療を支援するチャリティゴスペルコンサート実行委員会主催のゴスペルコンサートが開催され、100 名ほどの方が参加されました。
- 実行委員長の黒木中君は日高の高校の同級生で、彼の伝手で昨年に引き続きニューヨーク在住のゴスペルシンガー西村あきこさん、ジャズピアニスト加藤景子さんのコンビに、西村さんの指導を受けている黒木君の友達、ゴスペルクワイアのメンバー 7 名が宮崎に駆けつけてくれ、息のそろった素敵なゴスペルを聞かせてくれました。
- はじめにクワイア全員でコーラスを歌い、参加者と一緒に歌ったりした後、日高から活動の様子などをスライドを使って 10 分ほど話を行い、最後に西村さん、加藤さんコンビによるゴスペルを聴かせてもらいました。
- 参加者の声です「初めて参加しました。山元先生に昔、子



どもが病気でお世話になった友人も参加したいと一緒に参加！山元先生の現地での活動を想いながら歌やピアノを聴いているとその力強さに魅了され心が躍動していきました。とても素敵な時間をありがとうございました。」



・西村さんと黒木君を含むメンバー6人は、翌日の午前11時から、宮崎市橋通のアートセンター広場（許可済）で30分間道行く人達に熱唱を披露し、たくさんの拍手を受けていました。

現地活動報告（山元香代子先生から）

みなさま　いかがお過ごしでしょうか。日本はゴールデンウイークも終わり、気温が上がっていると聞きました。こちらは、4月末からは全く雨が降らず、きれいな青空が広がっています。朝晩は寒く、行水がつらくなってきました。

ザンビアの通貨クワチャが安くなってきていて、昨年の今頃は1ドル9.95クワチャでしたが、現在は1ドル12.7クワチャとなっています。そのため薬品や食料品など高くなっています。

4月24日はその前の週に川の増水で行けなかったニヤンカンガでの巡回診療。患者数は80名。マラリア陽性は78名中11名(14.1%)。5歳未満の子供の陽性は33名中2名、6.1%でした。明らかにマラリア患者数が増えてきていますが、殺虫剤が確保できないために噴霧はできないことを説明しました。ムワプラヘルスポストのスタッフが予防接種を実施しました。

5月2日はサンダラでの巡回診療。患者数は76名。マラリア陽性は76名中20名(26.3%)。5歳未満の子供の陽性は24名中5名、20.8%でした。マラリア患者が増えています。予防接種が実施されました。

2週間前の雨の影響で、途中の3つの川にも水が流れていきました。帰路にはそのうちの一つの川で新車のランドクルーザーの車輪がスリップしてしまい出られなくなりました。男性のスタッフ総動員で水の中に入り、車輪の下に石を置いてうまくいかず、逆に砂利を除いてみんなで押して何とか川から出ることができました。1時間近くかかりました。その後途中で肺炎の乳児がいて、チベンビヘルスセンターまで搬送したりして、ルサカ到着は12時前でした。

5月8日はルアノでの巡回診療。患者数は109名。マラリア陽性は108名中21名(19.4%)。5歳未満の子供の陽性は32名中4名、12.5%でした。マラリア患者が確実に増えてきています。殺虫剤噴霧ができないことが残念で仕方ありませんが、コミュニティヘルスワーカーに十分量のマラリア薬と検査キットを渡して乗り越えるしかありません。ルアノの診療が月に1回になったので、妊婦健診や家族計画の患者数が多く、助産師のチブリカさんは大忙しで頑張っています。私たちが到着した時には患者はいなく、1時間程患者の到着を待っている状況で、診察が終了したのが午後6時前、もう少し早く来るよう住民に伝えてくれるようにコミュニティヘルスワーカーにお願いしました。昼食のシマが出て、うれしかったです。

今週水曜日にはルアノ郡のリテタに出かける予定です。昨年の11月に一度行ってから、雨のため行けませんでした。住民が道路を整備して待っているとのこと。何としても実施したいと考えています。

仕事の合間に家探しをして、ようやく1件見つかりました。3台の車を止める駐車場もあり、3ベッドルームで、一つ一つの部屋はせまいのですが、リビングルームとベッドルームひとつを使えば、薬や蚊帳などの在庫も置けると判断し



ました。ただトイレが一つしかないので、やや不便です。夜はガードマンがいるので安全面でもやや安心です。ドアにグリルドアをつけ、全ての窓にバーグラーバーを設置したりと、今作業をしてもらっています。引っ越しは5月末になると思います。ザンビアは比較的治安のいい所だと思ってきましたが、最近はあちこちで盗難や窃盗が頻発し、十分に気をつけようと考えています。

いろいろと思うようにいかないこともあります、みんなで元気にがんばって行こうと思います。
みなさまからの支援に心からお礼申し上げます。ありがとうございます。

巡回診療に同行して

- ・私は3月29日から4月9日までの約2週間、ボランティアとして参加させていただきました。
- ・叔母（山元先生）が、海外で医師として医療援助をしている活動は以前から話を聞き、メディア等も通じて情報を得ており、現在の大学生という期間に貴重な経験を積みたいと思い、参加することになりました。
- ・ザンビアの首都ルサカに到着し、その街並みや設備は意外にも自分の想像よりも良好でした。そして診療前日に、沢山の薬や現場で使う椅子や机などを車に詰め込み、翌日水曜日の朝6時に出発しました。
- ・今回、診療を行ったのはチサンバ郡のサンダラという地域でした。車にはサポートしてくれる看護師さんやスタッフさんを乗せ2台で向かいました。サンダラへの道のりはとても険しく、首都のルサカを離れるにつれて道の状況は徐々に不安定になり、始めは道路が凸凹だったのが、次は点々と陥没が目立つ道路になり、最終的には野原に轍だけがあり牛が目の前を横切っていくような道のりでした。また、その中でルサカを離れるにつれ家屋の風景なども変化していく、柱と藁で作った屋根だけのような建物が目立ち、生活の雰囲気からも国内での発展の違いから、貧富の差を感じさせられました。
- ・車が砂を巻き上げ、ジェットコースターのように揺れながら向かう中、途中途中で“待ってくれ”と手を挙げて待っている人達がいました。車を停めると、どうやら診察を希望しているらしく、叔母とスタッフ方が診て薬などを処方しました。彼らは、毎週水曜にその道を通ることを分かっていて診察を受けるために待っているのだそうで、この活動がどれだけ求められているのかという事を痛感しました。

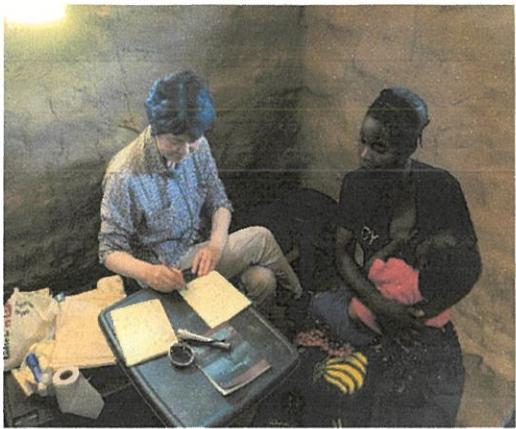
出発から5時間以上経ち、お昼過ぎに目的地のサンダラに到着しました。そこはテニスコート4つ分くらい大きさの広場に簡易的な小さな小屋と、藁で出来た屋根と柱の簡易的な建物があり、そこに椅子や机を運び診察が始まりました。すでに広場には小さい子供を抱えた女性を中心に多くの人々が集まっており、次々とノートで作られたカルテを取りに受付に集まっていました。

カルテには番号が記入されており、患者さんが渡してくる番号札を500以上あるノートから探して渡す作業を手伝いました。

- ・カルテを受け取った後、村の人々は叔母が診察する小屋や、マラリアの検査を行う場所、体重を測る場所などに各々で行って診察等を受けていました。診察を受けた後は、病状によって小屋の隣に設けている施設でスタッフに薬を処方してもらっていました。
- ・診察の様子を見せていただくと、小屋の狭い空間の中に沢山の患者さんが列をなしており、診察を待っていました。そして、サンダラではザンビアの公用語である英語は通じない為、叔母の隣に現地の言葉を話せるスタッフが座り、村の人々との通訳をしていました。
- ・広場の周りには、小さなマーケットも出ており、バナナや、遠く離れた街まで行って仕入れたとみられるお菓子や日常品が並んでいました。村の人々の様子は、子供たちは元気に走り回り、大人たちも同じように皆と会話を楽しみ、とても明るい空間でした。



- ・5時間程度経過し、並ぶ患者さんも少なくなりその日の活動は終了しました。すると、村の人々から“シマ”と呼ばれるザンビアの料理をご馳走してもらいスタッフの皆さんといいただきました。



・その後、話を聞くと、その日の患者さんの中には、現場の対応だけでは難しく街の大きな病院へ行かなくてはならない方もいたと聞きました。しかし一番の問題であるマラリアに罹る人は、叔母たちが活動しているここ数年、徐々に減少しているらしく、その日もマラリア検査で陽性だった人は全体の十数パーセントでした。他にもこの活動では、井戸を掘る支援なども行っていると聞き、現地の人々の生活を大きく良い方向に向かわせているのだと感じました。

・今回、実際にアフリカという地に足を踏み入れ、現地の様子を生で見てみて感じたのは、“幸せの価値観”でした。今の私

たちが暮らす先進国日本では全てのものが揃い、万人が最低限の生活を保障されています。しかし、私たちはそのような中でも生きていく中で、発展ゆえの足枷からストレスを感じ、幸せを感じる瞬間はそう多く無いのかかもしれません。しかし、今回行ったザンビア、特にサンダラでは、決して便利な生活でなくても、村の人々が皆、笑顔で和気あいあいと生活し、夜になり、空を見上げれば見たことのないような綺麗な星空が広がっていました。大袈裟に言えばそもそも幸せや不幸せという考え方自体がそこにはないのではないかと感じるくらいでした。そこから、私たちが住む日本でも置き換えて幸せが何なのかということを考えなければならぬないと感じました。そして、そういった素晴らしい本来の人間らしい生活が残る地を、こういった活動でより良いものにしていくことに大きな意味を感じ、素晴らしいものなのだと改めて痛感しました。

・最後に、微力ではありますが、この活動に参加させて頂いて、この文章に書ききれない多くの勉強をさせて頂きました。今回の活動で得た沢山の大きな経験を自分のこれから生き方に生かし、遠く離れた地にある現実を、たくさん的人に伝えていきたいと思います。（福岡大学 山元康寛）

賛助会費の納入と寄附受領証明書の送付について

- ・新しい事業年度（事業年度は1月から12月）となりました。賛助会費（個人一口5000円、団体一口10000円、一口以上）及びご寄附（金額は問いません）のご協力をよろしくお願いします。
- ・当法人は認定NPO法人であり、ご寄附（賛助会費含む）いただいた際には、翌年の確定申告で税制上の優遇措置を受けるための寄附受領証明書（賛助会費も寄附金と同様税控除の対象）をお届けします。
- ・ご不明の点は日高（info@ormz.or.jp）までご連絡ください。

★郵ちょ銀行からの振替 口座記号 01720-9 口座番号 126351
加入者名 NPO法人ザンビアの辺地医療を支援する会
★他の金融機関からの送金 郵ちょ銀行 店名：一七九、預金種目：当座、口座番号：0126351
加入者名：NPO法人ザンビアの辺地医療を支援する会
カナ名称（全角）：トクヒ ザンビアノヘンチイリヨウヲシエンスルカイ

*令和元年もどうぞご支援のほどよろしくお願ひします